

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「しかけと表現の工夫を見つけて、物語のおもしろさを伝える文章を書こう」 教材名「注文の多い料理店（宮沢賢治）」

2 単元の目標

(1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)ク／(2) 登場人物の相互関係や心情などを描写を基に捉え、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。C(1)イ・エ／(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク) ②文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ)	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ③「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	①進んで表現の効果を考え、学習の見通しをもって、物語のおもしろさを伝える文章を書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、二人の紳士が山の中の不思議な店に入り、扉の注文を自分の都合のよいほうに受け取って奥へ進み、結末で自分たちが料理される側だったと気付く物語である。現実の山から不思議な店に入り、また戻るという場面の移り変わりがある。二通りに受け取れる題名や注文の言葉、同じ形で繰り返される扉、色や音の描き方といった表現の工夫が多く、学習指導要領第5学年及び第6学年の(1)ク「比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと」と、C(1)エの表現の効果を考える学習を、同じ教材で扱える。扉ごとに、二人の受け取り方と、読む人が気付くことがずれていくので、登場人物の相互関係や心情を描写を基に捉える学習(C(1)イ)にも向いている。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

.....

.....

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、単元の軸は「読むこと」とし、物語のおもしろさを伝える文章を書く活動は、読んで身に付けた力を使う場（C(2)イ）にする。書く技能の指導を主にしない。次に、表現の工夫の学習を別の時間にせず、第2次の読む学習に組み込む（第3の1(3)）。そして、「おもしろい」「こわい」で止まった発言は「どの言葉がそう感じさせたか」と叙述に戻す。引用は教科書を開いて該当箇所を指し、黒板には短い語だけ書く。音読が苦手な子にはペア読みや範読を入れ、目で追えるように表を使う（第3の1(9)）。端末がある学級では三列の表を共有シートにして、友達の線の引き方を見比べられるようにする（第3の2(2)）。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を音読で読み通し、登場人物（二人の紳士、二匹の犬、山猫）を確かめる。 ○どこで現実の山から不思議な店に入り、どこで戻ったかを、場所と出来事の変化で区切って表にする。 ○「この物語のおもしろさはどこにあるか」を仮の一文で書き、単元の終わりに書く文章の相手（下の学年や家の人）を決める。	知②（音読の様子） 態①（見通しの記述・ノート）
第2次	2	○扉の順に、注文の言葉（先生が本文から入れる欄）・二人の受け取り方・読む人が気付くこと、の三列の表を作る。	思①（表の記述・話し合いの発言）
	3 （本時）	○繰り返される扉の場面を比べ、二通りに受け取れる言葉や同じ形で繰り返される言葉、色・音・においの描き方が、読む人の気持ちをどう動かすかをペアで話し合う。	知①（線を引いたノート） 思②（話し合いの発言）
	4	○最後の場面で紳士の顔が元に戻らないことの意味を、冒頭の二人の様子と結び付けて考える。 ○題名の二つの意味に気付く。	思②（表の記述・話し合いの発言）
第3次	5	○結末を書かずに、しかけ一つと表現の工夫一つを取り上げ、それがどう効くかを理由を付けて書く。	思③（書いた文章）
	6	○グループで読み合い、相手の文章で自分が気付かなかった工夫を一つ書き足す。 ○単元の振り返りで、最初に書いた仮の一文と比べる。	思③（書き足し） 態①（振り返りの記述・読み合いの様子）

6 本時の指導 (3/6)

(1) 本時の目標

繰り返される扉の場面を比べ、言葉の使い方の工夫が読む人にどんな効果を生んでいるかを、描写を基に説明できる。(1)ク、C(1)エ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時に作った扉ごとの表で、二人が扉を通るたびに何を信じ、読む人は何に気付いたかを確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「注文は一つずつ増えて、おかしいとも言われているのに、二人はなぜ引き返さなかったのだろう。言葉のどこがそうさせたのか」 【めあて】扉の注文の言葉の工夫が、読む人にどんな効果を生んでいるかを考えよう。 3 自分の予想をノートに一文で書く。	・前時に作った扉ごとの表を黒板に貼り、一つずつ指で押さえながら確かめる。 ・予想を一文で書かせてから活動に入る。
展開 (分)	4 一人で、扉の注文の言葉に、二通りに受け取れる言葉と、同じ形で繰り返されている言葉を、色を分けて線を引く。 5 ペアで、線を引いた所を、その言葉がなかった時と置き換えて比べる。 ○「その言葉がなかったら、二人は、読む人はどう感じるか」 6 全体で、出てきた工夫を「繰り返し」「二通りの言葉」「色・音」の三つに分け、それぞれが読む人にどう働くかを、読む人の側の言葉で言い直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ形の注文が続くから、だんだん疑わなくなる。 ・読む人は途中で変だと気付くのに、二人は気付かない。そのずれがこわくておもしろい。 ・色や音の描き方が、奥に進むほど変わっていく。	・注文の言葉は、教科書の該当箇所を開いて指させる。黒板には短い語だけ書く。 ・線が引けない子には「この注文は誰が誰に向けた言葉か」と問い、一つ前の扉と比べさせる。 ・早く終わった子には題名の二つの意味を問い、どちらの意味が最後に残るかを考えさせる。 ・「おもしろい」「こわい」で止まった発言は「どの言葉がそう感じさせたか」と叙述に戻す。 ・音読が苦手な子にはペア読みや範読を入れ、目で追えるように表を使う。 ・端末がある学級では三列の表を共有シートにして、友達の線の引き方を見比べられるようにする。 ◎知① 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(線を引いたノート) ◎思② 表現の効果を考えている。(話し合いの発言)
まとめ (分)	7 振り返りを二文で書く。 (型)「今日見つけた工夫の一つを選び、それがあって読む人はこう感じる」 8 数人が読み上げる。	・次時は最後の場面と冒頭を結び付けて、物語の全体をとらえることを伝える。

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端：題名・作者・めあて（表現の工夫→読む人への効果）。
その左：扉の順番と注文の言葉（先生が本文から短く入れる）。
中央：二人の受け取り方（心情が分かる言葉）。
その左：読む人が気付くこと。
左側：見つけた工夫を三つの箱（繰り返し／二通りの言葉／色・音）に分け、矢印の先に効果を書く。
左端：振り返りの型。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

